

# ユネスコ教育における「環境領域」の単元開発 (2)

—平和構築に関わる教材開発の視点—

高田準一郎 由井 義通 前杵 英明 西原 利典  
井長 洋 横山 道昭

## 1. 問題の所在

### 1-1. 本稿の目的と構成

2005年10月、広島市でシンポジウム「広島の復興経験をどうアフリカに活かすか?~シエラレオネからの研修員を迎えて~」が開かれた<sup>1)</sup>。

このシンポジウムは、広島の復興経験がどのようにアフリカの復興支援や平和構築に役立つのか、考えるものであった。「シエラレオネ平和復興のための国際協力セミナー」に来日したシエラレオネの中央および地方政府の幹部行政官からは、シエラレオネの現状や復興支援や平和構築に関わって、具体的な報告があった。

中等教育における社会(地歴・公民)科では、復興支援や平和構築の観点からみると、カンボジアの事例など、アジア地域での学習展開が一般的である。アフリカ地域との関係においては、ルワンダの内戦に言及して、1994年に日本などからPKO部隊が派遣された事例などにとどまる場合が多い。

本稿では、教科書の学習内容を復興支援や平和構築の観点から整理し、日本との関係で教材開発の視点を検討したい。具体的には、10年にわたって内戦状態にあったシエラレオネ共和国の取り組みをとりあげる。これらの検討を踏まえて、広島の復興経験を捉え直し、教材開発の新たな可能性を提示したい。

### 1-2. 戦争・紛争と環境破壊

「戦争・紛争は最大の環境破壊」である。ベトナム戦争では、アメリカ軍は「枯れ葉剤作戦」を実行した。これは、ベトナム軍に有利なジャングル戦を避けるための戦略だった。湾岸戦争では、ペルシャ湾に大量の原油が意図的に流され、海洋が汚染された。一方、原油の炎上は、硫黄酸化物や窒素酸化物を大量に含んだ煤煙を発生させた。やがて、煤煙による雲は、黒い雨を降らせた。この雲は、酸性雨の原因、日中温度を下げる要因ともなった。また、湾岸戦争に使われた劣化

ウラン弾は、イラク戦争では大量に使用され、現在も多くの人々を苦しめている。

シエラレオネ共和国では、1991年、反政府武装勢力(RUF)が蜂起し、反政府戦闘行為が断続的に勃発し、約10年にわたって内戦が続いた。反政府武装勢力の財源となったのが、同国から産出されるダイヤモンドであった。この内戦によって、住宅やインフラが壊され、生活が破壊された。そして、大量の難民が発生した。

## 2. アフリカ地域に関わる教材の取り扱い

### 2-1. 対アフリカ ODA の概要

JICA アフリカ部(2005)の「今なぜアフリカなのか」から、対アフリカ ODA の概要をみてみよう。1990年代日本の ODA 予算全体が伸びるなか、対アフリカ向け ODA も増加した。1995年には、二国間 ODA の12%を越える13億ドルとなった。その後、ODA 予算の減少を受けて、対アフリカ ODA は、2003年には、5億ドルまで落ち込んだ。これは、二国間 ODA の8%にあたる。2005年4月のバンドン会議において、小泉総理大臣は、対アフリカ向け ODA を1996年のレベルに戻す公約をした。

JICA のアフリカ向けの技術協力の実績は、2003年度は約200億円だった。これは事業実績全体の14%にあたる。2003年10月、緒方貞子理事長が就任した。JICA は、対アフリカ支援を重視する方針を打ち出す。2004年度の実績は211億円(17%)、2005年度の実績は224億円(20%)となっている。JICA のアフリカ支援は、ケニア、タンザニア、セネガル、ザンビアほか44か国と、サブサハラアフリカのほとんどすべての国に届いている。

### 2-2. アフリカのイメージ

表1と表2は、アフリカのイメージを言葉にしてもらったものである。中学1年生の1クラス(男子20名、

女子20名)で、2005年12月に実施した。回答は、箇条書きに3つぐらいの言葉を求めたので、複数個の回答になっている。同じ表現のものは、とりまとめた。

男子、女子ともに「砂漠」「暑い(熱い)」「野生動物」「自然」といったキーワードに、イメージが集中している。自然環境に関わるイメージの比重が高く、社会的、文化的イメージの比重は低い。

変わったところでは、ガーナサッカー協会前会長の名前「ニャホニャホタマクロー」があったが、これは、テレビ番組での影響である。ワンガリ=マータイさんの名前はなかった。こちらは、ケニアの女性環境活動家である。アフリカの緑化活動が評価されて、2004年のノーベル平和賞に輝いた。平和賞が環境分野の活動に贈られるのは初めてであった。自然環境のイメージの比重は高かったが、マータイさんには結びつかなかったようだ。

対アフリカ ODA に結びつくイメージはなかった。「内戦」に関わるイメージとしては、男子で1人の「戦い」、女子で3人の「内戦」「紛争、民族あらし」「地雷」であった。クラスの人数からいえば、1割である。

表1：アフリカのイメージ (2005, 中1男子, ( )の数字は同一の表現のあった人数を示す, 表2も同様)

|   |
|---|
| 砂漠(6), 暑い(5), サバンナ(5), 野生動物がたくさん(3), 暑そう(2), 野生(2), 自然(2), ジャングル(2), ライオン(2), 象(2), 色が黒い(2), はえ(2), もじゃもじゃ(2), ニャホニャホタマクロー(2), 発展途上国(2), 黒人, じゅうたん, 自然いっぱい, 遠い, 不思議な食べ物がある, 自然的, 黒人がたくさんいそう, 神秘的, 人の皮膚が黒い, 民族が多い, 狩り, チーター, 草原, 虫, アフリカゾウ, かなり暑そう, 草原動物, ラクダ, スフィンクス, ピラミッド, 赤道の近く, とても暑い, 文明的, 自然ゆたか, 南の国, 野生的, 発展途上, カラカラ, 戦い, 石油, いろいろな動物がいる, アナンさん, 足速い |
|---|

表2：アフリカのイメージ (2005, 中1女子)

|   |
|---|
| 砂漠(6), 暑い(6), 黒人(5), 熱い(3), ジャングル(3), 暑そう(2), 象がいそう(2), スポーツが強い, 文化が発達している, 黒人が多く, 動物(野生)がたくさんいる, 大自然, 熱い日ざし, そうだいな感じ, 自由そう, さばくがある, 石油, 内戦, 自然, 自然(でも緑は少ない), 発展途上国, ライオン, シマウマ, おどってそう, 黒人さん, 自然ゆたか, ぞう, チーター, 紛争, 民族あらし |
|---|

そい, まとまっていない感じ, 熱帯, ピラミッド, 石造の遺跡が多そう, 野生の動物, サバンナ, 乾燥, 発展途上, 原住民がいる, 色黒, 黒人がいっぱいいそう, 野生的, 後進国, 自然が豊か, 地雷

### 2-3. 中学教科書の取り扱い

表3は、中学校社会科の教科書における、世界の国々の事例である。事例地域に限られるため、アメリカ合衆国や中国などの国に集中している。西欧地域の国は、オランダ、ドイツ、フランス、イタリアなどに分散する。西欧における国の取り扱いは、国にはなっているが、EU あるいは西欧との関係で捉えている、といつてよい。

日本文教出版(2001)は、アフリカ地域のケニアをとりあげる。「日本との関係から見たケニア」の見出しがあり、「ケニアはどんな国をめざしているのだろうか。日本とそれにどのように協力できるのだろうか(日本文教出版, 2001, p.164)」という設問がある。本文では、貿易関係のほか、ODAでは、「ケニアに対する日本の援助は世界一」と指摘し、「日本は、空港の整備や橋・道路の建設、灌漑設備、大学の建設などにも協力している。子どもの死亡率が高いマラリア対策のためには、蚊帳などの無償援助もおこなっている(日本文教出版, 2001, p.164)」と説明する。

世界の国々は、「学習指導要領」において、「世界の国々の中から幾つかの国を取り上げ、地理的事象を見出しして追求し、地域的特色をとらえさせるとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる(渋澤, 2000, p.236)」と規定されている。教科書によっては、国だけではなく、結果的にとりあげられない大陸レベルの地域もでてくる。

表3：世界の国々の事例(現行版教科書, 国名は教科書の表記にしたがった)

| 帝国書院          | 東京書籍    |
|---------------|---------|
| 中国            | アメリカ合衆国 |
| アメリカ合衆国       | マレーシア   |
| ドイツ           | フランス    |
| 教育出版          | 清水書院    |
| 中国            | オーストラリア |
| アメリカ合衆国       | 中国      |
| オランダ          | オランダ    |
| 大阪書籍          | 日本文教出版  |
| 中華人民共和国(中国)   | 大韓民国    |
| アメリカ合衆国(アメリカ) | アメリカ合衆国 |
| イタリア          | ケニア共和国  |

**表4：アフリカに関する学習事項（帝国，2001）**

- ・世界でくらす日本の子どもたち（表紙見返し）
  - ・ケニア〔写真〕
  - ・アルジェリア，リビア，エジプト，マリ，チャド，スーダン，ガーナ，ナイジェリア，ケニア，南アフリカ共和国〔地図〕
- ・国と国との境目はどのようにになっているの？（p.20）
  - ・アルジェリア，リビア，エジプト，マリ，チャド，スーダン〔北アフリカの地図〕
- ・アフリカの国々（p.27）
  - ・エジプト，ナイジェリア，ケニア〔写真と解説〕
- ・世界の気候と日本の気候（p.140）
  - ・乾燥帯の砂漠（アルジェリア）〔写真と解説〕
  - ・熱帯（コンゴ共和国）から日本にきた人の話〔写真と解説〕
  - ・乾燥帯（スーダン）から日本にきた人の話〔写真と解説〕
- ・世界に広がる日本の生活・文化について考えよう（p.209）
  - ・七輪を使って食事をつくる女性たち（ザンビア）〔写真と解説〕
- ・〔世界の農産物〕（裏表紙見返し）
  - ・もろこし（アフリカ）〔写真と解説〕
  - ・キャッサバ（アフリカ）〔写真と解説〕
- ・インターネットアドレス
  - ・ケニア大使館〔アドレス〕

表4は、教科書（帝国書院，2001）に記載のあるアフリカに関する学習事項の整理である。項目「世界の国々を調べよう」では、アフリカ地域の国はとりあげられていない。しかし、「世界でくらす日本の子どもたち」のなかには、「ケニアの日本人学校」がある。また、世界の国々の姿をとらえる国境の学習では、北アフリカにおけるアルジェリア，リビア，エジプト，マリ，チャド，スーダンの国名をそれぞれ示すなど，工夫に努めている。ただし，アフリカの学習内容は，現行「学習指導要領」の改訂前，地誌学習のあった教科書に比べて，明らかに希薄になっている。

### 3-3. 高校教科書の取り扱い

高等学校地理の教科書では，民族・領土問題において，紛争地域を扱う。紛争地域の背景や紛争の要因として，宗教や言語などとの関係で説明がなされる。そして，紛争の解決や再発の防止にあたって，国際協力の必要性が指摘される。しかし，紛争地域と国際協力に関わる横断的な考え方は提示されていない。いいか

えれば，紛争地域を通して，復興支援や平和構築についての理解を図る問題意識は希薄である。

表5～6は，帝国書院（2002）の「紛争地域」「難民」からアフリカに関わるものを抽出した。「難民」の地図中には，「シエラレオネ」の記載がある。表7は，二宮書店（2002）における「アフリカの地域紛争」である。地図中には，「シエラレオネ紛争」の記載がある。表8～9は，二宮書店（2002）の「民族紛争」「領土問題・国境紛争」から，表10～11は，東京書籍（2002）の「民族紛争地域」「国境紛争地域」から，それぞれアフリカ

**表5：世界のおもな紛争地域（帝国書院，2002，p. 298，地図中記載分）**

- ・エチオピアとエリトリアの国境紛争
- ・ルワンダ，ブルンジのツチ人とフツ人の対立（1994年～）

**表6：世界の難民（帝国書院，2002，p. 310，地図中記載分）**

- |        |           |
|--------|-----------|
| ・スーダン  | ・シエラレオネ   |
| ・エリトリア | ・リベリア     |
| ・ソマリア  | ・（西サハラ）   |
| ・ブルンジ  | ・コンゴ民主共和国 |
| ・アンゴラ  |           |

**表7：アフリカの地域紛争（二宮書店，2002，p. 297，地図中記載分）**

- |             |         |
|-------------|---------|
| ・スーダン内戦     | ・ソマリア内戦 |
| ・ナイジェリア宗教対立 | ・ルワンダ内戦 |
| ・シエラレオネ紛争   | ・ブルンジ内戦 |
| ・リベリア内戦     | ・アンゴラ内戦 |

**表8：世界の民族紛争（二宮書店，2002，p. 300，地図中記載分）**

- ・西サハラの分離独立運動
- ・ルワンダの部族対立

**表9：世界の領土問題・国境紛争（二宮書店，2002，p. 306，地図中記載分）**

- ・スペイン・モロッコ間の領土問題
- ・エチオピア・ソマリア間の領土問題

**表10：世界のおもな民族紛争地域（東京書籍，2002，p. 309，地図中記載分）**

- ・スーダン南部問題
- ・ルワンダ内戦
- ・ブルンジ内戦

表11：世界のおもな民族紛争地域（東京書籍，2002，p.315，地図中記載分）

- ・西サハラ紛争（モロッコ・サハラ，1973年～）
- ・オガデン地方紛争（ソマリア・エチオピア，1977年）

に関わるものを抽出した。

### 3. シエラレオネにおける紛争の概要

#### 3-1. シエラレオネ共和国の概要

シエラレオネ共和国は、西アフリカの南西端に位置する。北東ではギニア共和国，南ではリベリア共和国と国境を接する。海岸部は湿地地帯とマングローブ林で，内陸部は高原地帯である。国全体が熱帯気候で，雨季と乾季とに分かれる。気温は年中高温が続く。首都のフリータウンでは，最暖月の1月が26.7℃，年降水量は3434mmである。

かつて，海岸地方は胡椒海岸または，穀物海岸とよばれた。1460年にポルトガル人が発見したが，1562年，イギリス人が上陸した。1787年，イギリス在住の解放奴隷を上陸させて，自由の町（フリータウン）を建設した。1808年には，海岸地方を植民地にし，1896年，内陸部を保護領にした。1961年，イギリス連邦内の自治国として独立し，1971年に共和国となった。

#### 3-2. シエラレオネの内戦

1961年，イギリスから独立して以降，小規模な紛争はあったが，大規模な内戦の発生は，1991年になる。この年，反政府武装勢力「革命統一戦線」（RUF）が蜂起した。反政府戦闘行為は断続的に勃発し，約10年にわたって内戦が続いた。1996年に発足したカバー政権（シエラレオネ人民党）は，RUF との和平交渉を進め，1999年にサンコーRUF 議長と和平協定に調印した。

2000年4月には，停戦監視のため国連シエラレオネ派遣団（UNAMSIL）が現地に入り，DDR 計画（兵士の武装解除および動員解除，社会復帰）を進めた。RUF は UNAMSIL の動きを敵対視し，PKO 要員など約500人を拘束する事件を引き起こした。これに対抗して，イギリスは艦船を派遣したため，一時緊張が高まった。しかし，同年5月，サンコーRUF 議長が拘束され，同年11月，RUF は停戦に合意した。2001年5月，武装解除の合意がなされ，RUF は少年兵約2600人を解放した。2002年1月までに，RUF と政府側民兵4万7000人が武装解除した。

10年以上に及ぶ内戦で約5万人が死亡し，数千人が手足を切断された。2002年5月，大統領と国会議員選

挙が実施され，現職のカバー氏が再選された。約10年間にわたる内戦に一応の終止符が打たれた。

## 4. シエラレオネの復興支援

### 4-1. シエラレオネの開発計画

表12は，JICA（2005）による「シエラレオネの開発計画」の項目を整理した。貧困削減戦略の内容が重要である<sup>2)</sup>。

表12：シエラレオネの開発計画（JICA，2005，より作成）

#### 1. 紛争後の状況

- ・国際社会の関与
- ・民主主義の回復，平和復興，和解
- ・紛争後の復興・開発における課題

#### 2. 貧困削減戦略

##### 2-1. 貧困削減戦略1

紛争直後の戦略（2001年～2004年）

- ・国家権力回復と人権尊重
- ・経済活動の刺激
- ・農村部の貧しき人々のための給水施設・衛生施設の建設
- ・迅速な保健サービスの提供

##### 2-2. 貧困削減戦略2

貧困削減戦略文書・ミレニアム開発目標（2005年から2007年における中期戦略）

- ・第1の柱：グッド・ガバナンス，安全保障，平和構築
- ・第2の柱：食糧保障と雇用創出のための貧困削減をもたらし成長の促進
  - ・農業の生産性向上による食糧保障の促進
  - ・漁業が雇用創出と食糧保障に貢献
- ・第3の柱：人間開発の促進
  - ・人間開発の促進1
    - ・成人教育
    - ・初等教育の普遍化
  - ・人間開発の促進2
    - ・女子児童教育の重視

#### 3. 国内資源の活用とドナー支援

- ・国内資源の活用
- ・ドナー支援
- ・援助協調
- ・日本との協力が可能な領域

#### 4. 日本との協力分野

## 4-2. PWJの帰還民キャンプの運営

PWJ(特定非営利活動法人、ピースウィンズ・ジャパン)のニュースレターより、シエラレオネでの活動を整理してみよう。PWJは1996年に設立、日本に本部を置くNGOである。紛争や貧困などの脅威にさらされている人々に対し、緊急人道支援や復興・開発支援を実施している。2005年2月現在、世界9地域で活動している。表13は、世界各地で展開されているPWJの活動のなかで、アフリカの地域における支援活動を整理したものである。

内戦で多くの難民・国内非難民が出たシエラレオネで、PWJは帰還民キャンプを運営に努めた。その後、多くの帰還民の出身地であるコノ地区で支援を開始した。一方、隣国リベリアの内戦で国を逃れたリベリア難民のためのキャンプも、2001年から運営を担ってきた。

PWJが運営を担ったキャンプでは、リベリア難民が1万人以上いた。2004年2月には、キャンプ内に幼稚園を開設し、春には日本からの文房具も届いた。2004年の秋にはリベリア情勢の安定とともに、難民の帰還が始まった。コノ地区での支援も継続中である。

表13: PWJのアフリカにおける支援活動(PWJ, 2005)

|          |                        |
|----------|------------------------|
| 1998年1月  | ルワンダ: 帰還民支援調査          |
| 2000年6月  | アンゴラ: 帰還民支援調査          |
| 2001年6月  | シエラレオネ: シエラレオネ帰還民支援開始  |
| 11月      | リベリア: リベリア帰還民支援開始      |
| 2002年2月  | シエラレオネ: コノ地区での帰還民支援開始  |
| 2003年11月 | リベリア: リベリア帰還民支援調査      |
| 2004年3月  | リベリア: 帰還民支援事業開始        |
| 10月      | シエラレオネ: リベリア難民の母国帰還始まる |

## 5. 平和構築における教材開発の視点

### 5-1. 広島戦後復興がもつ意味

広島は、原爆の惨禍から復興を遂げた街である。シエラレオネは、内戦で荒廃した国土から復興をめざしている。道路や水道、電気などのインフラ整備や、教育環境、医療保健、農業活動など、シエラレオネの復興計画の参考になる事例は少なくない。

「広島の復興経験をどうアフリカに活かすか?」のシンポジウムは、広島の戦後復興をシエラレオネの復興計画に活かさないか<sup>3)</sup>、考える場になった。広島における戦後復興の取り組みを、このような問題意識からみてみよう。

広島は、戦後一貫して「平和都市」の建設に努力してきた。1946(昭和21)年、復興都市計画が決定されたが、財政難のため、復興事業は遅々として進まなかった<sup>4)</sup>。こうした状況を打開したのは、1949(昭和24)年に制定された広島平和記念都市建設法だった。同法に支えられて、平和記念公園や百メートル道路、橋梁、公営住宅などの都市基盤が整備された<sup>5)</sup>。

広島の復興経験を「被爆」に特化し、特別なものとしてとどめるのではなく、復興のモデルとして捉え直す。広島の復興経験を普遍的な形で抽出し、モデル化する。このような捉え直しは、広島の新たな可能性を探る作業になるのではないか。

表14は、広島の戦後復興がもつ意味を示した概念図である。確かに、被爆の悲惨さを継承する取り組みは、重要である。被爆体験の風化が問題になっている現在、体験の継承は、これからも重要な取り組みとなる。しかし、広島の復興経験を、広島だけにとどめてはならないだろう。アフリカの復興支援や平和構築につながる広島の新たな可能性を探る試みがあってもよい。

表14: 広島の戦後復興がもつ意味

|        |        |      |
|--------|--------|------|
| 広島     | 原爆の被災地 | 戦後復興 |
| シエラレオネ | 内戦の被災地 | 復興計画 |

### 5-2. ユネスコ教育の領域とテーマ事例

表15および表16は、本校の「ユネスコ教育の基本方針」で提示した、ユネスコ教育の領域とテーマ事例の略案(学習項目)である。「全国高校ユネスコ研究大会」の分科会の内容などを参考に作成にあたった。

中学では、総合学習のテーマと対応させて、中1→世界平和、中2→地球環境、中3→国際理解(世界遺産)とした。高校では、選択した領域に関わるテーマの設定とした。中学では、ユネスコの教育の基礎的・基本的内容を扱い、高校では、中学での学習を踏まえて、発展的な学習内容を扱う「基礎・基本→発展」という表現にした。

本稿で検討した復興支援や平和構築の学習内容は、世界平和、地球環境、国際理解などの領域にそれぞれ関わる総合的な内容をもつ。さらに、包括的な観点から、ユネスコ教育の領域とテーマ事例を検討し、より実践的なものにしていきたい。

表15：中学におけるカリキュラムの領域とテーマ事例  
（広島大学附属中・高等学校ユネスコ教育推進  
委員会、2005、より作成）

| 学年 | 領域             | テーマ事例           | 総合学習 |
|----|----------------|-----------------|------|
| 中1 | 世界平和           | 国連の平和への<br>取り組み | 平和   |
| 中2 | 地球環境           | 循環型社会への<br>取り組み | 環境   |
| 中3 | 国際理解<br>(世界遺産) | 世界遺産への取<br>り組み  | 国際理解 |

表16：高校における選択領域のテーマ事例（広島大学  
附属中・高等学校 ユネスコ教育推進委員会、  
2005、より作成）

| 選択領域      | テーマ事例              |
|-----------|--------------------|
| 領域A：世界平和  | 世界平和と紛争            |
| 領域B：多文化共生 | ユネスコ精神と多文化共生       |
| 領域C：地球環境  | 地球環境と持続可能な開発       |
| 領域D：世界遺産  | 世界遺産と地域の遺産         |
| 領域E：国際理解  | 国際協力と教育            |
| 領域F：人権問題  | 人権、福祉とボランティア<br>活動 |

### 5-3. 「アフリカの子どもたちに運動靴を」

2005年3月にISPの会より、アフリカの子どもたちに運動靴を送るプロジェクトの依頼があった。本校では、ユネスコ協同学校推進室が受け、取り組みを進めた。運動靴は、体育科などの協力を得て、ダンボール1箱分ほど集まった。2005年12月にISPの会より、運動靴は、アフリカのルワンダ共和国のニューホープ・テクニカル・スクールおよびギジンバ孤児院に寄贈した、との丁寧な報告を受けた。

写真1は、運動靴を受け取ったニューホープ・テクニカル・スクールの生徒たちである。写真2は、生徒たちの寄せ書きである。いずれも、ISPの会からいただいた。ルワンダ共和国は、ツチ族とフツ族との間で内戦が続いてきた。内戦で国土は荒廃したが、現在は復興へと歩みを進めている。「アフリカの子どもたちに運動靴を」のプロジェクトもまた、復興支援との関係で再考していきたい。

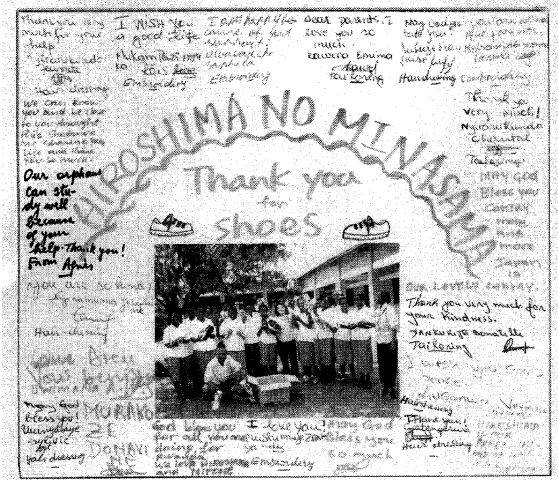
### 付記

本稿の作成にあたっては、シンポジウム「広島の復興経験をどうアフリカに活かすか？」で配付のあった資料などを引用、参照した。本稿の執筆は、高田が担当した。

写真1：ニューホープ・テクニカル・スクールの生徒たち（ISPの会より提供、2005）



写真2：ニューホープ・テクニカル・スクールの生徒による寄せ書き（ISPの会より提供、2005）



### 注

- 1) シンポジウムの主催は、独立行政法人国際協力機構（JICA）中国センター、広島県、財団法人ひろしま国際センターである。
- 2) 「官」の問題として、「日本の在外公館の特徴として、危険度が高まると撤退する。大使館も民間人も退避させ、インド人を名誉領事に任命している。なおかつ PKO が入って実際の危険度が下がっていても、大使館員の訪問はなく、各国の大使館が再開され NGO や国連諸機関が多数駐留している今も対応は不変である。駐在する唯一の日本の NGO も、治安情報の取得に事欠いたり孤立感などで不便を得ている（吉田、2003、p.210）」との指摘がある。
- 3) パネリストの篠田英朗氏からは、「広島の戦後復興

を国際協力にどう活かすか？」という提案があった。

- 4) 財政難は、平和記念公園も例外ではなかった。「被爆直後から爆心地の中島地区を記念公園とする提案が出されたが、財源難などから停滞した。1949（昭和24）年4月、公園の設計公募が行われ、丹下健三グループが選ばれた（葉佐井, 1999, p.93）」
- 5) 広島の人口が戦前の水準になるのは、昭和30年代に入ってである。「朝鮮戦争による特需と集結後の不況の時代を経て、1950年代半ばに入ると、経済成長の時代を迎え、1958（昭和33）年には、広島の人人口も戦前の41万人まで回復した（葉佐井, 1999, p.93）」

#### 文献および資料

- 有田和正（1993）：『「環境問題」の教材開発と授業』明治図書，167p.
- 大阪書籍（2001）：『中学社会 地理的分野』大阪書籍，223p.
- 教育出版（2001）：『中学社会 地理 地域にまなぶ』教育出版，244p.
- 左巻健男ほか編（2005）：『地球環境の教科書10講』東京書籍，255p.
- 清水書院（2001）：『新 中学校 地理 日本の国土と世界』清水書院，184p.
- 渋澤文隆ほか編（2000）：『改訂中学校学習指導要領の展開 社会科編』明治図書，255p.

- 小学館（2005）：『ニュースがすぐにわかる世界地図 2006年版』，小学館，225p.
- 帝国書院（2001）：『社会科 中学生の地理 世界のなかの日本 最新版』東京書籍，224p.
- 帝国書院（2002）：『新詳地理B最新版』帝国書院，320p.
- 東京書籍（2001）：『新しい社会 地理』東京書籍，201p.
- 東京書籍（2002）：『地理B』東京書籍，328p.
- 葉佐井博己ほか編（1999）：『図録 広島平和記念資料館 ヒロシマを世界に』広島平和記念資料館，127p.
- 広島大学附属中・高等学校 ユネスコ教育推進委員会（2005）：「ユネスコ教育の基本方針-2005（平成17）年度-」ユネスコ教育推進委員会，B 5判冊子，8p.
- 二宮書店（2002）：『詳説新地理B』二宮書店，319p.
- 二宮書店（2005）：『データブックオブ・ザ・ワールド 2005年版』，二宮書店，479p.
- 日本文教出版（2001）：『中学校の社会科・地理 世界と日本の国土』，日本文教出版，233p.
- 吉田鈴香（2003）：「資源がまねいた戦争 シエラレオネ」『紛争から平和構築へ』論創社，pp.179-211.277p.
- JICA（2005）：「シエラレオネの開発計画」シエラレオネ政府と国際協力機構（JICA），A 3判，2p.
- JICA アフリカ部（2005）：「今なぜアフリカなのか」JICA アフリカ部，A 4判，12p.
- PWJ（2005）：peacewindsJAPAN, vol.89 2005年 2月号，PWJ